

支倉常長フェロー報告書

提出日 H21 年 10 月 26 日



申請者	氏名	志賀 尚美
	所属・職	大学院生
出張期間	2009年 10月 9日 ~ 10月 16日	
渡航先	ベオグラード、セルビア	
渡航目的	学会参加	
発表演題名あるいは 共同研究課題名	Local Biosynthesis of Estrogen in Human Endometrial Carcinoma through Tumor-Stromal Cell Interactions	

得られた成果など

セルビアの首都、ベオグラードで開催された第16回欧州婦人科癌腫瘍会議 (international meeting of the European society of gynecological oncology) に参加してきました。学会会場はセルビアの新市街地に位置するサバセンターというところでした。初日は暖かく天候にも恵まれましたが2日目以降は急速に寒くなり風雨が強い日が続きました。

今回の学会の大きな目玉は2008年にノーベル医学賞を受賞した、子宮頸癌を引き起こすヒトパピローマウイルス (HPV) を発見したドイツがん研究センターの H.zur Hausen 氏の講演でした。それに関連してか、学会の発表もHPVワクチンに関連した発表を多く認められました。日本でも最近になってようやく国内での使用が認められるところだったので興味深いものでした。



また、子宮頸癌、体癌、卵巣癌、すべての分野で新しい手技、装置を使用した報告が多かったのも印象的でした。具体的にはロボットを使用した癌の手術、子宮頸癌の初期治療である円錐切除術の新しい装置による試み、などです。普段行っている診療に直結する発表が多く、参考になりました。また、State of the Art という議題でそれぞれの分野の現時点での標準治療を解説するセッションがあり、現在の診療が世界の中でどの位置にいるのか、確かめることができよかったです。

ポスター発表に関しては臨床に関連するものが多く、自分の研究分野に直接関連のある発表が少なかったのが残念でしたが、興味を持ってくださった方もあり、有意義な発表となりました。

今回支倉常長フェローでこのような学会に参加させていただきありがとうございました。今後の研究、臨床に役立てたいと思います。

